

令和6年度 さいたま市タウンミーティング【西区】



日時 令和6年9月7日(土) 14:00～15:30
会場 西区役所
参加者 16名(傍聴者2名)
開催テーマ 子ども・子育てに優しい社会にするために、みんなでできることって？

意見分類の表示について

◎テーマ説明資料上の表記

【子ども・若者に求めた意見】

- 1 大人に伝えたいこと、今気になっていること、
もっとこうだったらいいのと思うこと
- 2 子どもたちのために使えるお金があったら
どんなことに使ってほしい？
- 3 みんなの好きな居場所、ほっとできる居場所ってどんなところ？

【大人に求めた意見】

- 4 子ども・若者の意見をどう受け止めるか
- 5 子育てをするうえで困っていること
- 6 ○○のところを配慮してもらえるとありがたい
- 7 どのようなことができるか
- 8 子育て中にあたたかい気持ちになった瞬間は？
- 9 子育てに優しい社会に向けて、自分が取り組んでいること

◎開催概要での表記

- 1 [子ども・若者]大人に伝えたいこと、もっとこうだったらよいのと思うこと
- 2 [子ども・若者]子どもたちのために使えるお金があったら
- 3 [子ども・若者]好きな居場所、ほっとできる居場所
- 4 }
5 } 子育てに優しい社会に向けて
6 }
7 }
8 } 自分が取り組んでいること、取り組めること、感想等
9 }
10 その他子育てに関すること
11 テーマ外の意見

※発言順ではありません。

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
[子ども・若者] 大人に伝えたいこと、もっとこうだったらよいのと思うこと	働きやすい環境を作るとよい	さいたま市は子どもまんなか社会の実現に向けて少子化対策を推進していますが、出産や子育てが安心して行える環境づくりが重要です。しかし、心身の健康や経済的安定がなければ、子どもを持ちたいとは思えないと考えています。 調査によると、2030年には644万人の人手不足が予想され、企業の人手不足が労働環境の悪化を招く恐れがあります。これにより、働きがいや意欲の低下が起これ、子どもを持つ余裕がなくなるのではないかと不安を感じています。 少子化対策に対する漠然とした不安がある中で、働き方改革やICT教育の強化を望んでいます。	既に人材不足が問題視されています。働く人が少なく、日本の経済に対する不安もあると思います。そのため、不安を取り除く施策が重要で、これは子育て施策にもつながると思います。また、ICT教育を進めることで、女性の働く機会や社会参加が増えるという提案もありました。社会全体で働き手が減少している現実を考え、働くことと子育て、家庭のバランスが取れる社会をつくる必要があると思います。		提案を反映した
	「つぼみの日」を拡大し、小学1年生から中学3年生が関わる機会をつくるとよい	さいたま市では、小学6年生と中学1年生のギャップをなくすために「つぼみの日」という交流会が開かれています。交流対象を小中学生全体に広げることが提案します。理由として、小学1年生から中学3年生までの関わりが少ないため、交流を通じて不安を解消し、楽しい場所と感じられる機会になると思います。 中学生が6歳からの小学生と触れ合うことで、新たな目標や夢のきっかけになるとも考えています。また、小学生と中学生の壁をなくすことで、災害や事故の際に助け合える安全な市を作れるのではないかと思います。	さいたま市では、小学校6年生と中学校1年生のスムーズな移行を目的に「つぼみの日」を設けています。異年齢間の交流が減少している中、学校では同じ学年で活動するため、もっと多様な年齢の子どもたちが交流する機会が必要です。この提案は素晴らしいと思います。 市長としては、総合教育会議で意見を述べたり相談したりすることができます。教育委員会にもこの提案をしっかりと伝え、対応をお願いしていきたいと思っています。		今後の施策の参考とした

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
子育てに優しい社会に向けて	子どもの事故やケガを防ぐ取組が必要	現在は少子高齢化の時代で、子どもの数が年々減少しています。そのため、子どもの命がますます重要視されています。お子さんの命を守るための訪問ヘルパーのニーズが増加しており、事故やけがを減らすことが求められています。 訪問ヘルパーから具体的なアドバイスをもらうことで、事故やけがを未然に防ぐことができれば良いと思います。両親の目から離れた際に事故が起こることが多いため、けがをしない社会を目指して取り組んでいきたいと思っています。 幼児の虐待や殺傷事件が報道されている中で、命を落とす問題が深刻です。人と人間の絆を築き、命の尊さを考え、尊重し合える社会が必要だと強く認識しています。	訪問ヘルパーのお話を通じて、事故やけがをゼロにするための対応が必要だという意見がありました。子どもたちの事故やけがは多く発生しており、工夫によって防げることがあると考えています。 例えば、北九州市では子どもの事故が起こりやすい場面についての事例を紹介しています。子どもは予想外の動きをすることが多く、特に赤ちゃんの場合は注意が必要です。未然に事故やけがを防ぐことは、子どもや親にとって重要です。 私たちも、子どもを育てやすい環境を考慮しながら、こうした取り組みを進めていきたいと思っています。		提案を反映した
	中学生の着替えの場所を男女別で用意すべき	学校での着替えについてお話しします。小学校では3年生頃から男女分けて着替えており、教室が足りない中でもカーテンを設置して配慮していただき、感謝しています。しかし、中学校では時間の関係で男女が同じスペースで着替えており、体育着の上から制服を着る状況です。これにより、暑さでエアコンの温度を低くする必要があります。マナーや性の人権、環境への影響について疑問を感じています。	着替えの場所についての話は、私自身はあまり詳しく知らなかったのですが、中学生の年代で同じスペースで着替えることは理解しづらい状況だと思います。この問題が続いていることが現状です。 タウンミーティングに参加した学生からも様々な意見が出ており、まとめて教育委員会に伝える予定です。改善策について話し合い、予算などの面でも関与して考えていきたいと思っています。		提案を反映した
	子育て中は働かなくてよい、働く時間を減らす仕組みができるとよい	子どもや若者の意見を聞くためには、仕組みが必要ですが、大人に心の余裕がないと難しいと感じています。さいたま市は通勤が便利で、情報が手軽に得られる環境ですが、休日にはショッピングやレジャーにお金をかける人が多いです。 習い事やイベントが豊富な一方で、子どもたちが忙しすぎて疲れているのではないかと心配しています。便利さゆえに、余裕のない子育てや子どもたちへの配慮が不足しているように思います。 大人が忙しいと、子どもとの楽しく過ごす時間が減り、子どもが話をしなくなる状況を感じています。 働くお母さんを支える仕組みは多くありますが、子育て中は働かなくてもよい、または働く時間を減らす仕組みが必要だと考えています。	子育てをしている方々や社会全体に心の余裕や時間の余裕が必要だという意見がありました。国は育児休暇を奨励する取り組みを始めていますが、まだ十分ではありません。市も育児休暇を促進していますが、社会全体の理解には時間がかかると感じています。 子育てを中心に過ごす時間が大切である一方、共働きが必要な家庭も多いです。余裕を持った生活ができるよう、働き方改革や賃金向上に取り組んでいます。これには日本経済の発展が必要であり、バランスを取りながら進めていきたいと考えています。 また、子どもたちのやる気や元気が失われているとの意見もあり、これについても考えていきたいと思っています。		提案を反映した
	資料をたくさんくれるだけでなく、一つの場所でも提案してもらえるとよかった	今では幼稚園や小学校を通じてママ友との接触が増えたものの、さいたま市に転入した際、子どもができたときは非常に孤独でした。子育てしやすい環境ではあるものの、場所や情報が分からず、資料をもらってもどこに行けば良いか分からず困っていました。子どもができたときに、まず行くべき場所を誰かが提案してくれれば、もっとスムーズに市のサポートを受けられたと思います。	さいたま市は転入超過で、多くの新しい住民がいます。情報があっても知らないために迷っている方が多いと思います。相談する相手がいないことも、不安を助長しているのだと思います。 特に、転入して間もない方々の不安を解消するための支援が必要だと感じました。	本市では、子育て中の親子が気軽に集まり、楽しく遊んだり、情報交換ができる場として、0～3歳未満のお子さんとその保護者の方が利用できる単独型子育て支援センターを運営している。 単独型子育て支援センターでは、さいたま市に転入した子育て中の方を対象に、「ウェルカムさいたま」というイベントを開催し、「近所にお友達がほしい」、「子どもと遊びに行くところがわからない」などの不安を解消するための取組を実施している。（子育て支援課）	提案を反映した

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
子育てに優しい社会に向けて	グループホームを増やしてほしい	療育手帳を持つ子どもについて、将来的にはグループホームを考えていますが、本人は嫌だと言っています。西区にはそのような施設がありませんので、状況について伺いたいと思います。	さいたま市では、グループホームの拡大に取り組んでいます。就労支援の場所等と関連させながら、毎年増やしていこうとしています。障害のある子どもたちが成長し、その子どもたちが50歳くらいになった頃も想定し、福祉関係の団体とも話し合いを行っています。安心して子どもを託せる施設や地域社会の必要性を感じています。		提案を反映した
	パパママ応援プログラムは是非継続してほしい	私は子育てをさいたま市で終え、現在は子育て支援に多く関わっています。さいたま市の事業の中で、パパママ応援プログラムは非常に良い取り組みだと感じています。これは保護者が集まり、子育ての悩みを共有するもので、私も関わっています。ぜひこのプログラムを続けていただきたいと思います。	子育て応援パパ・ママおしゃべりプログラムについては、さまざまな考えや学びを通して、親として成長することを応援する取組として、今後も継続してまいります。(生涯学習総合センター)		提案を反映した
	困難な状況の小中学生への支援がしづらい	エンゼル訪問という事業に関わっていますが、訪問後に支援が途切れてしまうのが問題です。初めて赤ちゃんが生まれた家庭に訪問しますが、その後、困難な状況にある子どもたちへの支援が全くありません。高齢者については情報があり、見回りや声かけができますが、中学校や小学校では私たちが動くことができない状況です。何か支援の方法があれば、ぜひ教えていただきたいと思っています。	エンゼル訪問後に関係性が途切れてしまうという意見がありました。私たちはライフステージごとに継続的な子どもと子育て支援を考えていますが、未就学の時期には手厚いサポートがある一方で、年齢が上がるにつれて薄くなってしまう状況があります。この関係性を行政として把握し、サポートを継続できる方法を検討したいと思っています。各区役所に子ども家庭センターを設置し、アウトリーチを含めて行っていますが、まだ十分にできていない部分があると感じています。継続的に支援が必要な方々への体制を整えていきたいと思っています。		提案を反映した
	子育てのイメージアップをするとよい	子育ては大変というイメージが強調されすぎていると感じています。子育てのイメージアップを推進してほしいと思います。私自身、子育てで得た経験は何物にも代えがたいと感じています。子どもの成長を間近で見られ、新たな視点や大人社会にはない面白さを体験できます。また、子育てを通じて友人ができ、人間関係の幅も広がりました。子育てにはマニュアルがなく、うまくいかないことも多いですがよい意味での諦め力を身につけることができます。	子育ては大変というイメージが強くなりすぎているとの意見がありました。私も同感で、さいたま市は「子育て楽しいさいたま市」を目指しています。子育てには確かに苦労が伴いますが、その期間は人生の中で短いものです。その時間をどうやって大切に生かすか、子育てを通じて得られる経験や学びも沢山あると思います。私自身も子どもとの時間をかけがえのない宝物だと感じています。もっと多くの人にこのプラスのイメージを知ってもらいたいと思います。子育ては楽しいというメッセージを広め、大変さだけでなく楽しさも伝えていくことが重要です。私たちもそのPRに努めていきたいと思っています。	結婚や子育てに対する不安の解消と希望の形成については、「第3期さいたま子ども・青少年のびの希望プラン」における重点施策「こどもまんなか社会の実現」に位置付けており、今後若者に対してライフデザインを考える機会やライフイベントにまつわる様々な情報の提供を行っていきたいと考えています。(子ども・青少年政策課)	提案を反映させる為現在調査・検討を行っている

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
子育てに優しい社会に向けて	世代間交流ができる環境があるとよい	私は昭和の世代で大学で学んでおり、他の学生は令和の世代です。約30歳の差があるため、考え方や意見が合わないことがあります。世代間のギャップを感じていますが、世代を超えたコミュニケーションができる環境や施設があれば良いと思います。若い世代から学ぶことも多く、逆に昭和の世代が教えることもできると思います。様々なコミュニケーションを促進する場所が必要だと感じています。	世代間の交流や地域コミュニティの重要性についての意見がありました。おじいちゃんおばあちゃんの世代、お父さんお母さん、子どもたちがコミュニケーションをとる場が必要です。自治会やPTAはその役割を果たしていますが、最近では弱体化していると感じています。地域コミュニティの再構築は重要であり、子育て支援や防犯、防災、福祉などの視点からも大切です。世代間交流を促進する仕組みを考えていきたいと思っています。各学校で実施しているチャレンジスクールでは、地域の皆さんが協力して子どもたちに昔の遊びなどを教える活動が行われ、参加者から高評価を得ています。地域の工夫によって素晴らしい活動が実現しましたが、コミュニティの強化にはまだ課題があると感じています。今後も地域活動を考えていきたいと思っています。		提案を反映させる為現在調査・検討を行っている
	小学校の区域でのコミュニティが続くとよい	引っ越してきた当初は、近所の方々と知り合うのが難しかったです。子どもが小学校に入学し、PTA活動を通じて地域の方々と交流を持つようになりました。現在は主任児童委員を務めています。が、そういう立場でもない限り人とのコミュニケーションを深めるのは難しいと感じています。西区は広い地域で、4つの地区があります。それぞれの特徴がありながら、小学校区では関わっています。親世代が地域にどのように関わるかが課題だと思います。子どもが中学校を卒業すると、地域と関わらなくなってしまう親世代が多いと感じています。親世代が地域で生活する意識を高め、積極的にコミュニケーションの場を持つことが必要です。地域に関わりながら共に学び、育っていく気持ちを育てることで、良好な関係が築けると考えています。	それぞれの地域に、地域特性や関係性があると思います。子どもたちを育み、地域コミュニティを構築することが重要ですが、その関係性が弱まっていると感じています。これを再構築するためには、行政と地域住民が共に取り組む必要があります。私たちもその支援を行いたいと思います。私は当選以来「絆」という言葉を使ってきました。地域のコミュニティを再構築することが全ての問題解決の糸口になると考えています。引き続き、皆さんのご協力をお願いしたいと思います。		提案を反映させる為現在調査・検討を行っている
	明石市の施策を参考にしして実施してほしい	給食費の無償化については予算のやりくりが必要なのは承知していますが、明石市の泉前市長が子ども政策を実施し、人口増につなげた事例を参考にしたらよいと思います。全て同じにはできなくても、さいたま市も子どもを第一に考えた政策を進めるべきです。障害をお持ちの家庭や新しい環境に置かれた家庭へのケアも重要です。世代間の交流の促進も大切ですが、そういうった余裕のためには経済的な充実が必要です。明石市のように、小さなことからでもさいたま市で取り組んでいただきたいと願っています。	明石市にできるんだから、さいたま市だってできるだろうと、気合を入れていただきました。できることも多くあると思いますが、全ては難しいかもしれません。それでも、少しでも子育てしやすい環境を整えるために、引き続き取り組んでいきます。		提案を反映させる為現在調査・検討を行っている
	少子化対策は、行政が経済的支援をするのが一番効果的	少子化の問題には経済的な要因が関わっています。今日のテーマ「子ども・子育てに優しい社会にするためにみんなでできること」について、個人や地域でできることには限界があります。やはり国や行政に予算をつけてもらい、経済的な支援を行うことが一番効果的だと思います。	明石市にできるんだから、さいたま市だってできるだろうと、気合を入れていただきました。できることも多くあると思いますが、全ては難しいかもしれません。それでも、少しでも子育てしやすい環境を整えるために、引き続き取り組んでいきます。		提案を反映させる為現在調査・検討を行っている

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
子育てに優しい社会に向けて	ファミリーサポーターの報酬がもう少し高いと、提供会員を誘いやすい	ファミリーサポート事業についてお話しします。私は西区でサポーターをしています。共働きの家庭が多い中、サポーターが不足しています。多くの方にサポーターになってもらいたいと思いますが、現状はボランティアで、1時間700円の謝礼では誘いにくい部分があります。せめて最低賃金程度の謝礼を出していただくと、誘いやすくなると思いますので、ボランティアの待遇を改善していただけると嬉しいです。	ファミリーサポート制度のサポーターを拡充する施策についての話がありました。ファミリーサポート制度は非常にいい制度だと思っています。保育所の整備なども進めていますが、きめ細かいサポートにはファミリーサポート制度が重要で、そのためにはサポーターが必要です。そのため、報酬についても考えていきたいと思っています。		提案を反映させる為現在調査・検討を行っている
	給食費の無償化をするとい	給食費の無償化について、市長にも多くの声が上がっていると思います。PTA活動を通じて、給食費を滞納している家庭が実際に存在することを知りました。さいたま市のデータによれば、小学校6年間で31万5,360円、中学校で18万4,680円、合計で約50万円になります。無償化が実現すれば、子どもたちの靴や衣服、習い事の費用に充てることができると思います。特別支援の総合療育センターひまわり学園では、9年間で57万9,240円もかかります。障害をお持ちの子どもには医療的ケアの費用も必要ですので、給食費の無償化はさいたま市に住む家庭にとって大変助かることだと思います。ぜひご検討をお願いいたします。	さいたま市では、高校生(18歳)までの医療費の無償化を10月1日から実施します。中学校3年生までの無償化も全国で早い段階で取り入れましたが、給食費の無償化には50～60億円の費用がかかります。このため、地方自治体は選択を迫られる厳しい環境にあります。本来、医療費や給食費の無償化については、国が行うべきだと考えています。さいたま市では、給食に非常に思い入れを持っていて、おいしく安全な給食を提供できるようにしています。生活保護や準要保護の家庭には無償化を実施していますが、通常の家計では1食あたり250円から300円の負担があります。無償化を検討する場合には、各学校の給食室や栄養士の配置を見直さなければならない可能性が生じるため、市としての無償化は予定していません。この負担を軽減するため、国に要望し、市民の理解を得る努力を続けています。経済的な負担を軽減する取り組みが重要で、予算の使い方や工夫によって実現できる部分も多いと考えています。若い世代が子どもを産み、家族で幸せに過ごせる社会を作るために、今後も努力していきたいと思っています。		今後の施策の参考とした
	子どもの居場所になり得る場所が遠い	子どもの居場所についてお話しします。西区では役所を中心に考えると、児童センターや図書館が非常に遠いです。子どもたちが増えているにもかかわらず、これらの施設が不足しています。保護者の送迎が必要なため、子どもたちの居場所としては不便です。施設の拡充をぜひお願いしたいと思います。	西区では児童センターや図書館が遠いという意見がありました。現在、原則として各区に1つ設置していますが、それに代わる方法がどのようにとれるのかを考える必要があります。人口減少に伴い、公共施設をあまり増やさない方針を立てています。施設を増やしすぎると、その維持に費用がかかる、サービスが減少する可能性があります。身近な施設の重要性を考慮し、児童センターやその要素を持った身近な場所について、もう少しきめ細かく考えていきたいと思っています。		今後の施策の参考とした

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映状況
子育てに優しい社会に向けて	あいぱれっとを大宮以北にも造ってほしい	私は北区と西区に住んだことがあります。小さな子どもがいますと、大宮を越えるのが大変で、乗り換えも必要です。あいぱれっとが好きですが、行くのが大変です。今日、7歳の子に「さいたま市に欲しい場所は？」と聞いたところ、あいぱれっとがここにもあったらいいと言いました。また、子どもが好きな「冒険はらっぱ」という施設では、自由に遊べるのが魅力です。大宮よりも北側にあれば、もっと行きやすいと思います。	あいぱれっとは、遊びながら相談できるハードルの低い場所を目指しています。特に冒険はらっぱは人気で、多くの人を訪れています。現在、子ども家庭総合センターは市内に1つですが、今後は子どもたちが活用できる公園や施設について検討していきたいと考えています。冒険はらっぱやプレーパークでの、NPOやボランティアの方の活動の場を増やす検討もしていきたいと思います。公園は子育てにとって重要な場所であり、遊びやすい環境を整える必要があります。現在、公園では禁止事項が多く、もう少し緩やかなルールが求められています。地域での合意形成が必要で、別所沼などでは協議会を通じてルール作りを行っています。例えば、午前中は高齢者や未就学の子どもが過ごしやすいルールを、午後は元気な子どもたちが遊べるルールを設定することが考えられます。地域の理解を得ながら、遊びやすい環境を整えていくことが重要だと思います。		今後の施策の参考とした
	部活の練習着や大会着は、学校の体操服でよい	中学校の部活動のウェアについてお話しします。練習着や大会時のユニフォーム、靴代で総額約4万円かかり、入学時の制服代と合わせると10万円以上の出費になります。個人的には、練習着や大会着は学校の体育着で十分だと思っています。なぜそれほど費用をかける必要があるのか理解できません。家庭の経済的負担が大きいため、お金のかからない子育てを提唱するなら、市内全体での改善を求めたいと考えています。	部活動や制服、学用品などに関連する費用がかかるという話がありました。教育に関する費用が日本社会で非常に高いのが実情です。そのため、給食の問題を含め、教育費をいかに下げて子育てしやすくするかを国や行政の立場から考えていく必要があると思います。	教育に係る費用については、家庭における経済的な負担に十分配慮するよう各学校に働きかけております。引き続き進めてまいります。(教育課程指導課)	今後の施策の参考とした

意見分類	意見要旨	意見内容	市長回答	補足説明事項	市政反映 状況
自分が取り組んでいること、取り組めること、感想等	高校生までの医療費無償化の拡大はとても助かっていると思う	私も微力ながら子どもたちにボランティアで携わっています。高校までの医療費の拡大は、高校生がいる家庭にとって非常に助かると思います。			
	みんなが自分の知らない存在を知ろうとすることで、心のバリアフリーにつながる	私の教室には重度の障害のある生徒や小さなお子さん、シニア世代など多様なメンバーが集まっています。心のバリアフリー社会を広げることに関献したいと考え、一人も仲間外れにしない社会が必要だと思いました。差別をなくすことがその実現につながります。 差別をなくすためには、自分が知らない存在を知ろうとする姿勢が重要です。そのために、相手の気持ちになって考え、想像することが大切です。この考え方をさいたま市民に広めるため、私たちの法人では講演やワークショップを行っています。	子どもや子育てを支える社会のために、自分の知らない存在を知っていく、相手の気持ちを理解することが重要だという意見がありました。「みんな違ってみんないい」という包容力のある社会を共に作ることが大切だという御意見をいただきました。その通りだと思います。個々の違いを認めながら支え合い、障害の有無や子どもの有無といった違いを理解し、それを行動に移すことが大切です。さいたま市はノーマライゼーション条例を制定し、障害にかかわらず支え合う地域社会を目指しています。これは子育てにも関係する取り組みです。		
	プレイパークでの活動について	私はプレイパークを運営しています。大人に少しでも時間ができ、地域の公園で家族がのんびり楽しく過ごせる空気感を作りたいと思っています。子どもの遊びを多くの大人が緩やかに見守る環境が、まちじゅうにあふれることを目指して日々活動しています。			
	子どもが市外で就労支援を受けている	子どもが特別支援学校に通っていました。普通高校では友達ができにくいですが、支援学校で協力しあって友達ができるようになりました。 現在は卒業し、働いていましたが、心の病で辞めてしまい、就労支援に通っています。やっと失業手当をもらえるようになり、事業所からアドバイスをもらっています。			